

令和4年度 実施事業の概要

教育事業名: 全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿

期間 令和4年7月16日(土)～17日(日)、7月31日(日)

対象及び参加人数: 日本在住の高校生8名

目的:

「地域探究プログラム」は高校生の体験を通じた成長を目指し、改訂された学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める制度である。宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを育成する。

事業概要:

講話「地域づくりの実践」・フィールドワーク「地域の魅力を発見」・演習「実践活動の計画」等

【講師】 小西 隆文 氏(NPO 法人 リブランド・プロスノーボーダー)

塚田 歓太郎 氏(妙高市地域のこし協力隊)

成果:

講話「地域づくりの実践」では、プロスノーボーダーの小西氏からパークを作る目的や放課後の子供の居場所づくりという将来の展望について聞くことができた。その後、フィールドワークでパーク内のアクティビティ体験やマウンテンバイクのコース整備作業を体験した。塚田氏からは、地域のこし協力隊に就任した経緯や活動に関する課題を聞くことができた。塚田氏はワイン用のぶどう栽培に挑戦されており、その作業を体験することができた。参加者は、自ら課題を設定しその解決へと取り組む講師の姿から、挑戦することの大切さを感じている様子であった。

仲間づくり活動も実施し、異なる学校に所属している参加者が同じグループで実践活動を行うように話が進んでいる様子が見られた。

実践活動の計画では、グループを作って自分が地域貢献活動をするならどのようなことを計画するか話し合った。農業の普及啓発を目的としたボランティア活動や、地元の風景を残すための写真を活用した活動を計画していた。



小西さんが運営するパークの雰囲気を感じながら講話を聞いた。



開拓中のマウンテンバイクコースを実際に走り、五感でその魅力に触れることができた。



葉の選定や実の形成などの作業を実際に体験し、農業の魅力や課題について考える機会となった。



グループ内で実践活動の計画について意見を出し合っ、より効果的な活動を目指す姿が見られた。

課題:

来年度は学校との連携を目指し、今年度の反省を生かしてより魅力的な事業となるよう活動内容を改善する。